
死神にとっての非日常

時光 火流那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神にとつての非日常

【Nコード】

N9951Z

【作者名】

時光 火流那

【あらすじ】

千夏を助けてから数日がたったある日。俺はあの日を約束を果たすために星ヶ丘市に来た。その約束は「ココロと一緒に買い物」これってデートなのか？まあ、今日ぐらい仕事を忘れて羽休めするか。人の日常は死神にとつては非日常である。

死神シリーズ第三弾。

プロローグ(前書き)

今年最後の更新

プロローグ

side：死神

そう、それは数日前の出来事だ。

丸二日のあいだ何の連絡も入れずに独断で突っ走ったり、指令を無視した挙句に、本来狩るべき人間を生かし、違う男の魂を狩ってきた俺に対して、流石に普段は温和なココロも怒った。

その怒りは本部の、しかも同僚達の集まる広間で死神達 因みに、この時広間にいる同僚は多かった 俺を正座させ延々と説教をすと言う形で発散された。

分針が三周程まわる間、俺は正座を崩せず、ずっとそのままの体勢で説教を受けていた。

もともと説教や正座よりも、周りの同僚達の「あいつ何やったんだ？」又は「ざまあみろ」もしくは「御愁傷様」的な目線の方が堪えたり、痛かった。それこそ龍種に尾を叩きつけられた方がましだと思えるほどに。

その後、さすがに見兼ねた同僚達の進言のおかげで説教は終わったが、最後にココロは俺にこう言った。

「次の休みの日に、買い物に付き合ってもらおうです」っと。

この一言が、俺を慣れ始めた死神の日常から、懐かい「人」としての日常に。

ココロを慣れ親しんだ死神の日常から、「人」の日常へと誘^{いざな}った。

s i d e : 死神 F i n

ブログ（後書き）

皆様お久しぶりです。

現在進行形で『沙耶の唄』がやりたくてたまらない時光火流那です。でも年齢制限に引っかかっているのでやるやらない以前に買えないんですよね〜。

後二年待てば大手を振って買いに行けるのでそれが楽しみで仕方がありません。

閑話休題

今作は第二弾の様に火・木以外の偶数日に更新ではなく、原則一週間に一回更新で行きたいと思っています。

では、一週間後に更新できる事を祈りながら。

待ち合わせ

午前九時零分

side：死神

「何で星ヶ丘市何だ？」

俺は誰に言うわけでもなく独り言を呟いた。

まだココロは来ていない。

これはデートになるのだろうか

生まれてこのかた人間として十五年、星神の使徒として二年（人間換算で十七年程度）足して十七年間生きてきたが一度もデートなんてした事はない。

何が言いたいかと言えば、ずぶの素人である俺がココロをどう先導しろってんだ、と言うわけである。

「はあ〜」

誰に向けてなのか自分でも分からない今日何度目かの溜息を吐いた、まったく……面倒この上ない。

「何溜息なんて吐いてるんです？」

神月くん

俺を憂鬱にさせている原因、いや張本人の登場だ。

服装に無頓着な俺にはよく分からないが普段着ている服（ローブとアンダースーツ）を元にしておしゃれにした感じだ。

「遅かったな」
もちろん皮肉だ。

「女の子は身支度に時間が掛かるものですよ、龍崎神月くん」

「……理解ができないな。服装なんて、適当でいいだろう」

「乙女心をわかってないですね」

「はあ？」

意味が分からん。

「まあ、そんな事は忘れていくですよ、神月くん」

そういつて歩いて行くココロ。

「おい、待ってて。」

置いていくな。」

「前に私を置いて行こうとしたのは誰ですか？」

今その仕返しかよ!?

抗議しようとしたがやめた、この前のことは明らかに俺が悪い。
それに抗議している暇があったらココロを追いかけろべきだ。すでにココロは見えなくなっている。

まったく……折角の休日なのに、羽休め出来るかどうか不安になって来た……。

待ち合わせ（後書き）

はい、やっと死神君の現在の名前が出てきました。
これからはそっちで呼ぶことにします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9951z/>

死神にとっての非日常

2012年1月6日16時52分発行